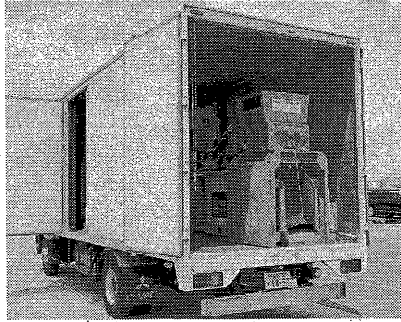


情報媒体の破砕サービス

アビツ オンサイト処理で確実に

自動車や電子機器など複合素材のリサイクルを得意とするアビツ(名古屋市中区、瀬田大社長、金属プラスチックリサイクル事業部 ☎052・619・6600)はこのほど、情報メディアの出張破砕サービスを開始した。移動式破砕機を搭載したトラックで依頼先に向き、磁気テープなどの情報媒体をオンサイトで破砕処理。顧客の目の前で破砕することでデータ流出を防止し、セキュリティ管理に貢献する。



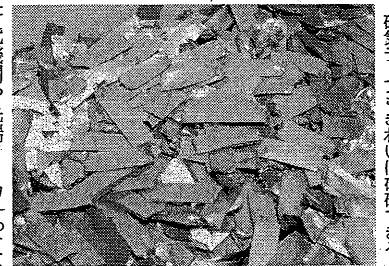
トラックに搭載した破砕機で
オンサイト処理

処理対象となるのは、オープンリールやCMT、LTOなどの磁気テープを中心に、CDやDVD、ハードディスクドライブ(HDD)など。サービスの流れとしては、依頼者の立ち会いのもとでオンサイト破砕処理を行う。破砕機の1日当たりの処理能力は、CMTやLTOで9000個、オープンリールで2000個。一般に磁気テープのよくな薄物は破砕しにくいと言われるが、巻きつきもな

く確実に

破砕できる装置となっている。穴開け機は700〜9000台を処理可能だ。破砕後の処理物はほとんどが廃プラとなるため、東海3県内であれば同社の施設で処理してRPFにリサイクルできる。エリア外でも協力事業者などで適正に処理する。要望に応じて、作業完了報告書や破壊証明書も発行。また、併せて事務仕器やOA機器など撤去や搬出、運搬、処分などのワンストップサービスも提供する。官公庁や金融機関、

研究機関や先端メーカーなど、機密情報や大量のバックアップデータを持つ事業者からの引き合いが強く、すでに強い。



磁気テープもきれいに破砕できる

に処理実績もあるといふ。特に多いのは磁気テープで、データの保存期間の終了にともない大量に廃棄されるが、情報セキュリティイマゼンメントの観点から廃棄にはデータ破壊が前提となつているケースがほとんどで、顧客が処理に立ち会いやすいオンサイト破砕の引き合いは「と抱負を語った。

全国対応でサービスを展開し、産廃の処理やリサイクルとも併せ、トータルサービスとして提供していきたい考えた。同社担当者は「近年、情報機器の利用は劇的に増えている一方、ガバナンスやコンプライアンスの観点から、廃棄時の情報セキュリティに不安を抱える事業者は多い。そうした不安を解消できる新たな付加価値として取り組んでいきたい」と抱負を語った。